

視察報告書

発行No. S-160202
作成日 2016.2.5
作成者 佐原充恭

視察地	福岡県福岡市 福岡市役所	日時	H28.2.2(火) 14:00~16:00
視察テーマ	定住施策について		
視察目的	転入超過・人口増が続き、アジアとの玄関口として活気あふれる福岡市のまちづくりを学ぶ。		
視察メンバー (敬称略)	会派『市民クラブ』メンバー(中嶋祥元、鈴木浩二、伊藤幸弘、山内智彦、黒川智明、佐原充恭)		

1)福岡市のまちづくりの概要

図表出展元:頂いた資料及び福岡市HP

★福岡市の優位性

- ・山海に囲まれたコンパクトシティ。都心部、博多駅、博多港、福岡空港が半径2.5km圏内に集積。
- ・外国人入国者が100万人超。(約85%はアジア圏より入国)
- ・市内総生産の9割が第3次産業。
- ・福岡市民の約95%が住みやすいと感じ、転勤で居住したビジネスマンの評価は全国1位。
- ・※若者率(19.5%)、女性若者率(10%)が高く、政令市でNo.1。
※若者率=総人口に占める15~29歳の割合
- ・人口は1万人/年程度増え続け、今後20年間で160万人に達すると推定。九州内からの進学・就職等による転入(社会増)の影響大。縮小傾向ではあるが、自然増も4,000人/年程度で推移。
- ・東日本大震災発生に伴い、本州の企業がバックアップ拠点として福岡に進出する動きがある。

▲福岡市の課題

- ・転入者のうち約3割が東京圏に転出している模様。大学生・大学院生の4割強が就職時に九州外に流出、特に理系は半数以上が九州外に流出。(理系職場が少ない)
 - ・人口ビジョンでは、65歳以上のみが増加していく。
 - ・第3次産業の特性より非正規雇用が多い。
- 合計特殊出生率の低さ、晩婚化、晩産化に関連しているかもしれない。

Q:佐原の質問

福岡市はかつてカワイイ区など個性的な取り組みを推進していたが、「女性が魅力を感じるまちづくり」のよい手法があればご教授頂きたい。

A:カワイイ区以降これといった施策はないが、女子大や美容学校があるのは女性を呼び込む一因ではないか。

2)福岡市が目指す都市像

1.『住みたい、行きたい、働きたい。アジアの交流拠点都市・福岡』を目指す。

4つの都市像=①自律した市民②自然と共生③海に育まれた歴史と文化④アジアの拠点都市
基本戦略=「生活の質の向上」と「都市の成長」の好循環を創り出し、福岡都市圏全体として発展する。

2.まち・ひと・しごと創生総合戦略

I.しごとを増やし、活力につながる人の流れをつくる。

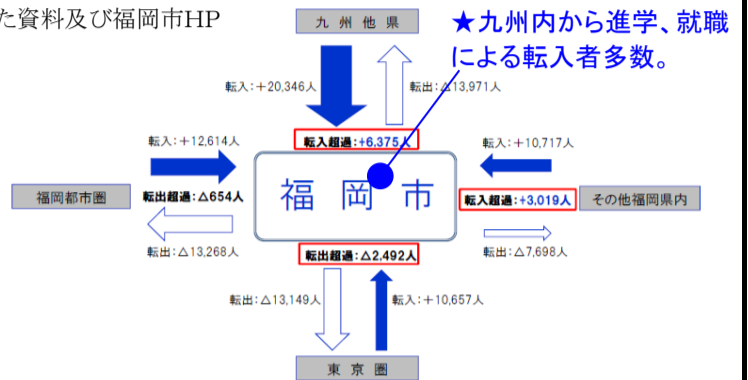
例. 拠点やゲートウェイの強化(ウォーターフロントネクスト、福岡空港の2滑走路化、天神ビッグバン建設など)

II.働き方を見直し、安心して生み育てられる環境をつくる。

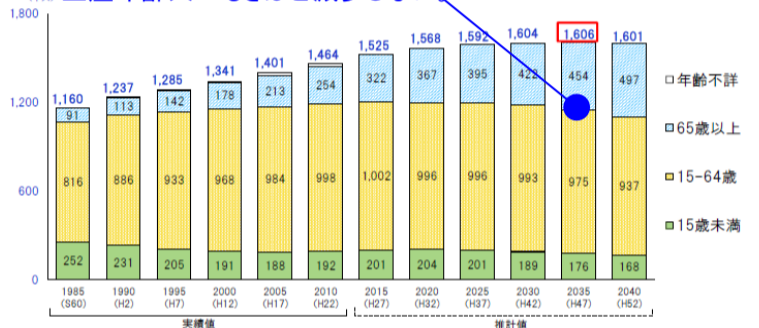
例. 待機児童の解消(保育所新設・増改築・小規模保育事業など多様な手法による保育所等整備など)

III.超高齢化社会に対応した持続可能で質の高い都市をつくる。

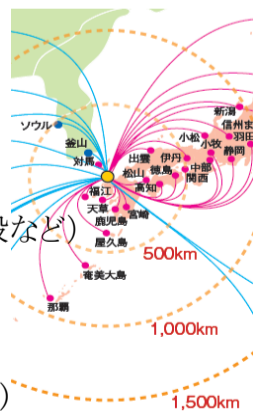
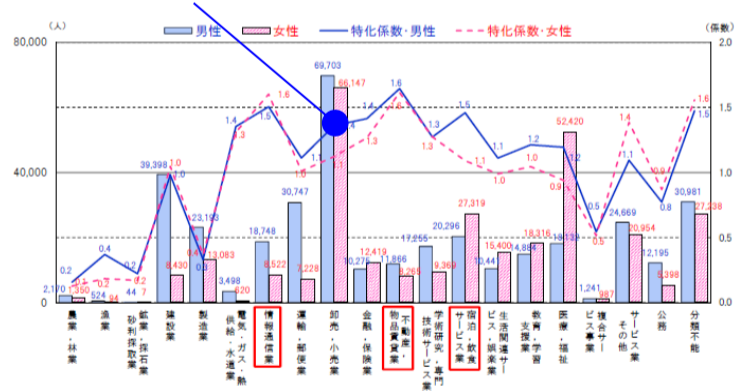
例. 健康づくりのきっかけづくり(健康マイレージ、福岡マラソン、アクティブシニアの創業・就業支援など)



★2035年時点で160万人まで人口が増えると予測。生産年齢人口もさほど減少しない。



★第3次産業(卸売・小売業等)が多く、若い女性が多い。



所感: 福岡市の地理的優位性や多彩な魅力を活かしつつ、課題を緻密に分析し、未来のまちづくりを進める姿勢に感銘を受けた。福岡市の2015年の転入超過数は8,880人で、東京23区、大阪市に次いで全国第3位である。ところが同県の北九州市は3,088人の転出超過で、2年連続全国第1位である。その多くが福岡市への転出だとすれば大きな問題である。これを名古屋と刈谷にあてはめるのは適切ではないかもしれないが、リニア開通を見据え、名古屋との相関関係を再分析する必要性を感じた。場合によっては、戦略的互惠関係の構築が必要かもしれない。こうした視点からも刈谷の将来を考えてみたい。

視察報告書

発行No.	S-160203
作成日	2016.2.5
作成者	佐原充恭

視察地	広島県広島市 広島市役所	日時	H28.2.3(水) 10:00～12:00
視察テーマ	女性の再就職環境整備モデル事業及びニート支援について		
視察目的	広島市が独自に取り組む 1)女性の再就職支援 2)ニート支援について学ぶ。		
視察メンバー (敬称略)	会派『市民クラブ』メンバー(中嶋祥元、鈴木浩二、伊藤幸弘、山内智彦、黒川智明、佐原充恭)		

1)「女性が再就職しやすい職場環境づくりモデル事業」について

広島市役所前にて



1.事業の経緯

出産・育児・介護等のため、やむを得ず離職した女性が、再就職を希望しても就業できない傾向にある。そこで、育休制度等のノウハウを学びたい中小企業を募り、コンサルティングを行うとともに、その社に就労(正社員)を希望する女性も募り、マッチングを支援する。

2.事業の概要

①実施方法(プロポーザル方式 1回/年実施 3年程度継続予定)

マンパワーグループ(株)広島支店に業務委託。委託料972万円。事業期間H27.9～H28.3

②支援条件(中小企業は10社、女性は10名募集)

中小企業:市内に本社を有する事。過去5年以内に出産等で退社した女性がいる事。女性の中途採用を予定している事。
女性:結婚・妊娠・出産・介護等により離職経験があり、原則として今後子育てや介護等を行いながら就業を希望する女性。

③支援方法

中小企業:各種コンサルティング(4回受講無料。経営者～女性従業員向けセミナー、組織診断、結果検証等)。
女性:マッチング(派遣登録→説明会→仕事紹介→面接→就職)及びフォローアップ(面接トレーニング等)。

所感: 事業開始まもなく、具体的な成果は確認されていないが、女性の子育て等と就労の両立支援を重要なテーマと捉え、行政としてマッチング支援に着手した事を評価したい。中小企業に「こうすれば働いてくれるんだ」「ここを改善すればいいんだ」との気づきが広がれば、雇用は着実に広がるはず。この手法を障がい者の就労にも横展開できないか。中小企業側は障がい者雇用をかなり難しく考えていると思うが、個々の障がい特性に見合った作業を提供すれば、障がい者も戦力として働く事ができる。行政として、こうしたマッチング支援もできないか確認していきたい。

2)ニート支援について

1.事業の概要

①国:広島地域若者サポートステーション事業(若者交流館)

15～39歳の若年無業者等で、就職(正規、非正規、アルバイト含む)に向けた意欲が認められる者とその家族に対し、ジョブトレーニングや各種セミナー・講演会、保護者向け講習等を行う。

②市:働くことに悩みを抱える若者のフリースペース

若者交流館事業に該当しない15～39歳の若者(就職や対人関係に不安を持つなど)に対し、居場所を提供したり、教育委員会や大学等と連携した支援を行う。

③実施方法

若者の就労支援ノウハウを有する民間事業者に委託(特定非営利法人キャリアネット広島 委託費計6,241千円)

2.成果(右図)及び関係機関との連携

以下の機関と連携し、支援を実施。

- ・広島地域若者自立支援ネットワーク
- ・ハローワーク
- ・発達障害者支援センター
- ・商工会議所
- ・職業訓練支援センター
- ・労働局
- ・県教育委員会 ほか

区分	利用者数	新規人数	進路決定人数
居場所(フリースペース)の提供事業 ※単市事業			
H21年度(6月15日開設)	689人	96人	18人
H22年度	1,256人	79人	24人
H23年度	1,910人	65人	39人
H24年度	4,020人	111人	45人
H25年度	4,110人	121人	61人
若者交流館ユートピア中央サテライト(働く事に悩みを抱える若者のフリースペース事業を含む)			
H26年度	3,410人	81人	61人
H27年度(12月末現在)	2,304人	96人	66人

所感: 多くの人々がこれらの相談機関を利用している現実を再認識するとともに、事業の重要性を痛感した。刈谷周辺では、安城市に若者サポートステーションがあり、同様の活動を行っている。厚労省によれば、サポートステーションは全国に160箇所あり、昨年度の利用実績は約52万件、就職決定者数は1.7万人との事で、一定の成果を出しているようである。ニート・ひきこもり等の支援ノウハウが更に蓄積され、支援の輪が広がる事を期待したい。私も今後勉強していきたい。